

様式6〔申し合わせ事項1-(5)、2-(5)、4-(4)〕

令和5年7月24日

東員町議会 教育民生常任委員会

委員長 川瀬 孝代 様

東員町議会 教育民生常任委員会

委員（議員） 三林 浩

研修報告書

研修期間	令和5年7月12日（水） ～7月13日（木） (2日間)
研修場所	①徳島県 上勝町 ②徳島県 徳島県庁
テーマ	①ゼロ・ウェストの取組について ②健康ポイントアプリ「テクとく」について
資料添付の有無	有 · 無

*研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入下さい。

[委員（議員） 氏名： 三林 浩]
研修概要、内容、所感
1. 上勝町 7月12日（水） この町は日本一ごみの分別が多く、全国の市町村から毎年多くの視察を受入れ、注目されている町です。一方本町は新しく「みらい環境課」を設置し、ごみ問題も含め、環境（SDGs）に取り組んでいます。昨年に上勝町を視察する予定でしたが、コロナ禍などで実行できませんでした。ごみに関して個人的にも興味があり、楽しみでした。 【研修概要】 上勝町の概要説明から始まり、私たちの事前質問に答えてもらい、ビデオで今日に至るまでの経緯を観て後、質疑応答の時間を設け、とても分かりやすい内容でした。その後、実際のごみステーションに行き、どのような形でごみを分別しているかな

ど、肌で感じることができました。

【所感】

特に記憶に残ったのは、現状把握を行い、数字で誰が見ても分かる工夫がされていることです。

また、人間の特徴をうまく活用し、自らが働くとする心理学を取り入れていることです。

例えば「ごみを分別する」ことで全国的に注目を浴び、メディアが町人に直接インタビューするようになり、町人も気持ちが高ぶり、いつの間にか町人が主役となり、さらにもっと「何かをして」自分たちの町を有名にし、財源を生む体質となっていることです。

しかしながら、中には上勝町の人口は約1400人だから出来るという人もいるのですが、私は1400人で出来るのなら本町も1400人単位に分けて（例えば地区ごとなど）すればと考えます。重要なのは「何をどうしたいのか」を明確にし、信念を持って貫くことだと思います。

もうひとつはプロセスに時間を費やし町人を如何に巻き込むかだと思います。そのヒントが「数字」であり「みえる化」です。

行政が一方的にお願いするだけではなく、町人が協力したら、これだけ良くなったりいうものが分かれば、習慣になるとを考えます。

本町にも取り組み姿勢をはじめ参考になると思いますので行政に提言していきたいと思いました。

2. 徳島県庁 7月13日（木）

徳島県庁が取り組んでいる「テクとく」は本町と似たところもありますが、大きな違いは、民間企業を上手く巻き込んでいることです。

例えば企業対抗や職場対抗など競争することで、参加人数を増やし、認知度を高めていることです。

また、参加しやすいように「アプリ」を活用していることも良かったと思いました。本町は紙系ですので都度、経費が掛かりますし、何より職員の時間を強要します。

【所感】

「テクとく」が始まった経緯は「糖尿病」で亡くなる人が全国で第1位だったため、どうしたら良くなるかを考えた末、健康管理に力を入れようというのがきっかけです。

しかし、一方的に発信するだけでは認知度も上がらないのでアプリを活用し、誰もが気軽に参加しやすくなり、参加すれば特典（ポイント）も付くといった一石二鳥で好スタートしました。

こういった「アプリの活用」や「ポイント制度の導入」は本町にとっても非常に参

考になります。課題もありますが「アプリの活用」からスタートできればと考えています。担当課とも協議しながら提言などを提出していきたいと強く思いました。

以上